

# 令和2年度指定管理業務に関する事業報告書（デイ）

施設名 久世老人デイサービスセンター

## 1 施設の管理運営

### 【開所日及び開所時間】

月曜日～日曜日 8時30分～21時15分  
(サービス提供時間 9時45分～20時15分)  
※365日営業

### 【利用定員】

指定通所介護事業（介護予防型デイサービス含む）  
第一部9:45～17:00：50名  
第二部(ナイトデイ)17:00～20:15：25名  
指定認知症対応型通所介護事業（介護予防含む）9:45～17:00：12名  
指定短時間型デイサービス 9:45～12:30：13名  
指定短期集中運動型デイサービス 14:00～15:30：10名

### 【事業実施区域】

京都市南区、下京区（八条通り以南）、伏見区（外環状線以北及び桂川西側）、西京区（府道142号線以南及び阪急京都線以東）

### 【施設運営】

○ 地域包括ケアシステムを構築するための基幹施設として、在宅高齢者に対して特養と同等のサービスを提供する「在宅特養」の進めてきました。この中で特養利用者への在宅復帰の取り組みを始めるとともに、在宅入所相互利用の利用者を増やすことにも力を入れ、特養入所待機者を少しでも減らし、施設ではなく住み慣れた地域で住み続けることが出来るよう支援できる体制を整えました。今までより一層、地域包括ケア実現に近づく事が出来たと考えています。

○ 特別養護老人ホームとしてISO9001認証取得（品質マネジメントシステムに関する国際規格認証）を、令和2年度も更新審査を受けるとともに、配食サービスへの認証取得の拡大を行い、これにより久世ホーム全事業においてISO9001を取得することができました。

○ 新型コロナウイルスの感染拡大を防止すべく、以前より導入していたビジネスチャットをより活用し、会議やミーティングをチャットで行い、密になる状況を防ぐようにし、組織

### 【建物管理】

○ 新型コロナウイルス感染症対策として、以前より施工していた消臭・抗菌・抗ウイルス「ラーフエイド」を施設全館に施工し、安全な施設として感染拡大防止に努めました。

○ 久世ホーム設立当初からの空調設備が22年経過し、老朽化に伴う更新時期となったため、京都市と協議を進めながら、新しい設備に更新しました。

○ ビルメンテナンス専門業者に依頼し、建物の定期点検を実施するとともに、施設の経年劣化に伴う修繕にも力を入れ、美観を損なわないよう維持管理に努めています。

○ 緊急時や非常災害時に、施設管理者や役職員に連絡、招集が取れる体制を整えています。また防犯対策として警察への非常通報装置や防犯カメラを設置していましたが、防犯カメラの台数を増やしたり、監視モニターを設置する等、不審者や暴漢への対策をより充実させました。

(参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容

## 2 事業実施内容

### 【指定通所介護事業】

通所介護・介護予防通所介護・介護予防型デイサービス事業実施とこれに伴うサービス提供（食事・入浴・レクリエーション・機能回復訓練・送迎・相談業務・レクリエーション・送迎・相談業務などの提供）

### 【指定認知症対応型通所介護事業】

要介護状態となった場合においても、その認知症である利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る。

### 【指定短時間型デイサービス】

要支援者又は事業対象者に対し、その利用者が可能な限りその居宅において、自立した日常生活を営むことができるよう、短時間で必要な日常生活上の支援及び機能訓練を行うことにより、利用者の心身機能の維持回復を図り、もって利用者の生活機能の維持又は向上を目指す。

【指定短期集中運動型デイサービス】

要支援者又は事業対象者に対し、その利用者が可能な限りその居宅において、自立した日常生活を営むことができるよう、専門職が運動指導を行い、原則3箇月間（必要に応じて6箇月間以内）の短期間の集中的な機能訓練を行うことにより、利用者の心身機能の維持回復と自主的な運動習慣の構築を図り、もって利用者の生活機能の維持又は向上を目指す。

【久世老人デイサービスセンターのサービス重点項目】

・ナイト(夜間)デイサービスの実施。  
夫婦共働き・フルタイム勤務で、介護を担っているご家族も増えている現在、その中で日のデイサービスでは帰宅に間に合わず、介護と仕事の両立に悩む方は少なくありません。また、高齢世帯やお一人暮らしの方も増えており、夜ひとりでご飯を食べるのは寂しい、今まで通り夜にお風呂に入りたい…という要望もあります。このようなニーズに応えるべくナイトデイサービスを実施し、サービスの拡充を行っています。

・自立支援、自己実現へむけての取り組みを強化。  
そのために、介護予防を要支援者だけではなく要介護者に対しても実施していき、ご利用者が主体的に機能訓練に取り組む環境を整えてきました。  
生活動作すべてにおいて歩行という行為がついて回ります。そのため、歩行という能力に着目し、久世ホームの長い廊下を活かした歩行訓練の実施や、それを行うための機能訓練機器を利用したトレーニングを行い、ご利用者様の在宅生活をサポートできるよう専従の理学療法士からのアドバイス、プランニングを行っています。

・認知症の周辺症状の緩和。  
認知症の周辺症状の多くは、身体の不調からきていることが多いことから、「食事・水分・排泄・運動」を中心としたケアを重点的にとりくむことにより認知症周辺症状の緩和につなげています。具体的には、「食事：1日の摂取カロリーの増加による活動エネルギーの増加を目指す。」「水分：1日1500ccの摂取による脱水予防」「排泄：食物繊維の入ったゼリーを提供し便秘の解消」「運動：歩行を通した運動による活動量のUPから夜間の良眠につなげる。運動を通して脳の活性化につなげ、認知症の進行を緩和する」ことを行っています。

・プライバシーに配慮したサービス  
入浴：ご本人のプライバシーに配慮したサービス提供。「急がず、騒がず、あせらず」を合言葉に。 排泄：「常にさりげなく支援する」をキーワードに個別の援助を実施しています。

・地域交流（近隣の保育所、児童館、大藪小学校、久世中学校）等を通し高齢者とのふれあいの場の提供により地域に根ざした施設となっています。

(参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容

(参考) 自主事業内容  
指定居宅介護支援事業所の運営  
京都市配食サービス事業の委託運営  
指定訪問介護、夜間対応型訪問介護、定期巡回随時対応型訪問介護看護の運営

3 サービス提供状況

【職員体制】 指定通所介護事業、指定認知症対応型通所介護事業、短時間型デイサービス事業、短期集中運動型デイサービス事業  
管理者1名 生活相談員兼介護職員9名 看護職員兼機能訓練指導員6名  
介護職員16名 機能訓練指導員3名

(参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容

4 市内中小企業への発注に対する考え方

地域の中の施設であるという考えのもと、地域との結びつきを強め、互いに協力できる体制をつくるため、地域の中小企業や個人商店が当施設との取引の中で永続的に発展できるようにしていきたいと考えている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 通所介護(総合事業含む)延べ利用者数(実績値)

25583 人

(2) 認知症対応型通所介護稼働率(実績値)

99.06 %

### (3) 収支実績

#### ア 令和2年度収入状況（単位：円）

介護保険収入	275,482,895
利用料収入	16,857,700
委託料収入	0
補助金収入	3,243,078
寄付金収入	0
雑収入	403,610
その他	39,001
収入計	296,026,284

#### イ 令和2年度支出状況（単位：円）

人件費	123,865,612
事業費	57,807,481
委託費	16,780,542
小額修繕費	18,256,479
その他	11,516,831
支出計	228,226,945

## 6 施設の利用者満足度の把握

### (1) 利用者満足度の把握状況

- 満足度調査の実施（利用者、家族）
- 利用者嗜好調査の実施（利用者）
- ご意見箱の設置

### (2) 利用者満足度把握の結果

- 職員のマナーについて、約92%の方が満足
- 送迎は安全に行えているかどうか、約92%の方が満足
- 館内の環境整理について、約89%の方が満足
- トイレについて、約87%の方が満足
- 入浴について、約77%の方が満足
- 食事、おやつについて、約70%の方が満足
- レクリエーションについて、約65%の方が満足
- 機能訓練について、約76%の方が満足。
- デイサービスのサービス内容を総合的にみるとどうかの問いに、満足、非常に満足していると回答された方が77.2%でした。

### (3) 意見等への主な対応状況

満足度調査等により、把握できたご意見、ご要望を職員で検討し、改善策、改善期間を調査結果として施設内に掲示。

## 7 その他特記事項

### (1)

- 学生・実習生、インターンシップの受入れ  
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、多くの実習が中止となりました。その中で、どうしても必要な実習が受けられない学校や学生に対し、感染症対策を十分行ったうえで受け入れ、社会福祉士の現場実習や保健師の現場実習を行いました。
- インターンシップについては、「人生を考えるインターンシップ」と題し、福祉とは関係のないことを学んでいる学生が、これからの高齢化社会に向け、高齢者の問題を身近にとらえ、社会に出たときに高齢者の視点に立った商品開発やサービス業での応対等に役立つことができるような学びを実体験できるように支援いたしました。

※ 受け入れに際しては、感染症対策を行い、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の時期を外したうえで受け入れを行いました。また、特養での実習については中止しております。

(2)

「出張型地域包括支援センターおたっしや広場」の実施がコロナ禍の影響により中止となり、郵送型おたっしや広場と形を変え登録者270名あまりに毎月、介護予防が図れる脳トレや工作グッズ、健康カレンダー等を郵送しつなかりを継続しています。  
イオンモール京都桂川の催事スペースでの再開は難しい状況であったが、屋外での開催なら密を避けることが出来ると考え、公園体操を実施している公園をお借し、出張型介護相談会を実施しました。自宅や来所相談にコロナ感染の不安を頂いておられた方にも屋外での相談会とのことで、気軽に参加頂く機会を持って頂くことができ、介護申請につながったケースもあります。

(3)

配食サービス「くぜごはん」の昼食の価格を390円で提供。より利用して頂きやすい様、利用者負担が軽減できるようにしてきました。夕食の配食では、翌朝の朝食用としてパンとジュースを付け、またあわせてデイサービスでの持ち帰り弁当を実施し、独居や高齢者世帯のご利用者の食事の確保を行っています。非常に好評で、口コミでの紹介も多く、昼食、夕食共にそれぞれ100件を超え、年間6万7千食を超える配達を達成しました（年間配食数67,628食）。  
現状の厨房のハード面では、これ以上の食数提供が難しく、希望される利用者に待機して頂いている状況です。そのため、食の安全や食事メニュー等の質の向上のみならず、配達員の配達サービスの向上に努めていきます。

## 8 評価（指定管理者自己評価）

デイサービス5事業で（通所介護50名定員・認知症型12名定員・短時間型13名定員・短期集中運動型10名定員・ナイトサービス定員25名）合計定員は110名にも及んでいるが、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底的に行った上で、コロナ禍の中でも公の施設として一人でも多くの方にサービス提供できるよう、受け入れ調整を実施し、感染者やクラスターの発生なく事業を実施できました。結果、一般型、認知症対応型ともに前年以上の収入を達成することができました。  
利用者サービスの向上、施設の安全性の確保を行うことにより、事業運営の安定化を図ることができたと考えております。

○ 新型コロナウイルス感染症対策として、施設全館に消臭・抗菌・抗ウイルス「ラーフェイド」を補助金を活用しながら施工し、設備として感染対策に万全を講じました。インカムの導入や無線LAN設備の増強を行い、人と人が接する機会を少しでも少なくしたうえで、なおかつ情報共有やサービスの質の低下が起こらないようソフト面でも対策を講じました。

○ 特別養護老人ホームとしてISO9001認証取得（品質マネジメントシステムに関する国際規格認証）の更新審査を受けるとともに、配食サービスにおいても認証取得の拡大を行いました。これにより、久世ホームで実施しているすべての事業においてISO9001の認証を取得したことになります。これにより、サービス提供を行うための業務プロセスの維持、改善を図ると共に指定管理施設としての信頼性、信用の向上につながったと考えております。

○ 毎月1回の研修会を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、文書回覧での研修会やオンライン研修への参加となりました。サービスの向上のための研修や倫理、接遇、マナーの向上、障害者差別解消法に基づく不当な差別的取扱いの禁止及び合理的配慮の提供についての研修を実施いたしました。障害のある方々が、ない方々と同じように権利を使えるようにするためにはどのような合理的配慮が必要かを考え、差別的な行為とならないかどうかについて文書開催ではありませんが、職員に注意喚起や理解を求めました。また実際に対応がうまくいかなかった職員については、その都度個別に話し合いを行っています。

○ 新型コロナウイルス感染症により、高齢者が情報難民となる中で久世ホームで実施している事業や取り組んでいるサービスを法人ホームページで情報発信するとともに、広報誌等の紙媒体での情報提供を行い、情報発信に努めました。

尚、収支については、一人でも多くの方にご利用いただいた結果、安定した収入に繋がっております。本体施設の特養に支出案分の割合が多く乗る関係がありますので、施設全体として収支状況を見ていただけたらと思います。

今後、更に進んでいく高齢化に向け、指定管理者、地域福祉の拠点施設として地域包括ケア実現に向け努力して参ります。